

【AYA week 2022 イベント：病気になった AYA 世代の恋愛・結婚どうする？】 アンケート結果の報告

表題のセミナーに関するアンケート結果をご報告申し上げます。頂きましたコメントは、判読が難しいもの、表記が適切でないものも含め、原則全て記載しています。

本セミナーは 143 名の方にご参加いただき、92 名の方からご意見を頂きました。

(1) 性別を教えてください。

①男性	15.2%
②女性	81.5%
③その他・非公開など	3.3%

(2) 年代を教えてください。

①14 歳以下	0.0%
②15 歳～19 歳	0.0%
③20 代	5.4%
④30 代	30.4%
⑤40 代	29.3%
⑥50 代	23.9%
⑧60 歳以上	10.9%

(3) お住まいの都道府県を教えてください。

県名	人数	割合	県名	人数	割合	県名	人数	割合
北海道	1 名	1.1%	石川県	1 名	1.1%	岡山県	3 名	3.3%
青森県	0 名	0.0%	福井県	0 名	0.0%	広島県	2 名	2.2%
岩手県	0 名	0.0%	山梨県	0 名	0.0%	山口県	0 名	0.0%
宮城県	1 名	1.1%	長野県	3 名	3.3%	徳島県	0 名	0.0%
秋田県	0 名	0.0%	岐阜県	0 名	0.0%	香川県	0 名	0.0%
山形県	1 名	1.1%	静岡県	4 名	4.3%	愛媛県	2 名	2.2%
福島県	0 名	0.0%	愛知県	1 名	1.1%	高知県	0 名	0.0%
茨城県	1 名	1.1%	三重県	0 名	0.0%	福岡県	0 名	0.0%
栃木県	4 名	4.3%	滋賀県	1 名	1.1%	佐賀県	1 名	1.1%
群馬県	1 名	1.1%	京都府	3 名	3.3%	長崎県	1 名	1.1%
埼玉県	5 名	5.4%	大阪府	10 名	10.9%	熊本県	1 名	1.1%
千葉県	5 名	5.4%	兵庫県	3 名	3.3%	大分県	1 名	1.1%
東京都	18 名	19.6%	奈良県	1 名	1.1%	宮崎県	0 名	0.0%
神奈川県	12 名	13.0%	和歌山県	2 名	2.2%	鹿児島県	0 名	0.0%
新潟県	1 名	1.1%	鳥取県	0 名	0.0%	沖縄県	1 名	1.1%
富山県	0 名	0.0%	島根県	1 名	1.1%	海外	0 名	0.0%

(4)あなたのお立場を教えてください。(複数回答可)

①患者 治療開始前	1.1%
②患者 治療中	15.2%
③患者 治療後フォロー中 5 年以内	13.0%
④患者 治療後 5 年以上経過	12.0%
⑤患者のパートナー	1.1%
⑥患者の家族	6.5%
⑦医療従事者	51.1%
⑧ヘルスケア関連企業の社員	3.3%
⑨メディア	5.4%
⑩その他	5.4%

その他詳細

支援者、難病患者就職サポーター、看護学生、生命科学研究者

(5) 各セッションのご感想を教えてください。

～アプリを登録してみよう！ 18:00-18:20 (20min) ～

①満足	22.8%
②やや満足	22.8%
③どちらともいえない	26.1%
④やや不満	3.3%
⑤不満	2.2%
⑥視聴しなかった	22.8%

～パネルディスカッション 18:20-19:20 (60min) ～

①満足	70.7%
②やや満足	16.3%
③どちらともいえない	5.4%
④やや不満	1.1%
⑤不満	0.00%
⑥視聴しなかった	6.5%

～Q&A セッション 19:30-20:00 (30min)～

①満足	69.6%
②やや満足	17.4%
③どちらともいえない	8.7%
④やや不満	1.1%
⑤不満	0.00%
⑥視聴しなかった	3.3%

(6) 視聴してのご感想を是非お聞かせください。

- ・リアルな声を聞いて良かったです。
- ・途中からの参加になりましたが、同世代の生の声を聞くことができ本当によかったです。心にぐっとくるものがありました。
- ・これまでなかなか話題にしにくかった内容で貴重なお話でした。支援の際に参考にさせていただきます。
- ・女性のぶっちゃけたお話がためになった
- ・赤裸々に話して下さったパネリストの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。またそれぞれ！って言う質問の仕方をして下さった知映先生にも感謝です。

・患者さんの生の意見が聴けて、私たち医療従事者がどんなサポートをしていけばいいのか考えるきっかけになりました。とてもためになるお話をしてくださったパネリストの方々に感謝いたします。

・率直な話を聞くことができました。

・がん経験者の性のお話を聞く機会が初めてでした。こういう話をオンラインで開催してくださっていることに感動しました。お話を聞きたい方がたくさんいると思います。聞けてよかったです。ありがとうございました。

・特に、カッキーさんの「社会的に、今年頃から、性について話せる雰囲気になったと感じる」という言葉が印象的でした。

・がんになったことで異性に対して引け目を感じることは多々ありますが、それを乗り越えた経験として見れば引け目を感じる必要はないという言葉に勇気づけられました。

・なかなか患者様からは、このような生の声を聞くことができる機会はなく、今日は本当に貴重なお話を聞かせていただき、ありがたい限りです。話しづらいことも話してくださり、本当にありがとうございました。

・体験者の声から、学ばせていただきました。司会の方のまとめと進行も、すごいなぁと思いながら聞いていました。

・話しづらい内容だったと思いますが、お話しいただいてありがとうございました。医療従事者として、患者さんにどのように支援したらよいのかを考える上で、大変参考になりました。治療を受けたことにより影響が出ることについては、医療者側からきちんと情報提供し、また相談してよいことだという認識を持てるようにすることも大事なのだと思いました。

・率直な意見を色々聞くことができ、勉強になりましたし、このように話せる時代になったことが本当に素晴らしいと思いました。

・パネリストの皆さまや質問でも多くの意見が聞けてよかったです。

・あたたかい体験や、傷ついた体験、そのまま共有をしてくださったことに感謝ばかりです。とても大切なことで、話しやすい、相談しやすい医療者になりたいと思います。

・親としての視点もあるととっても助かったと思う

・このセミナーを受講しようと思うきっかけになった患者さんがいます。悩みをまず受け止められない不甲斐なさを、そのとき感じました。今日のセミナー、登壇者のみなさまのお話、本当に貴重でした。ありがとうございました。

・アプリを登録の時間が少なくて少し焦ってしまいました。

・私が癌を患ったのは4歳の時でした。今までがんになったことを自身の中でなかなか消化できずに自己肯定感が持てませんでした。ここ数年自立して働き多くの人と関わることでようやく受け入れることができ、人として成長できた気がします。次は恋愛のステップで成長します。

- ・患者さんの生の声をきけたため、貴重な経験となりました。
- ・AYA 世代の患者さんの気持ちがよく分かりました。
- ・登壇者の皆様、知映先生ありがとうございました。私も現在 29 歳で 26 歳の時に大腸がんになって先週転移してた卵巣がんを摘出する手術を受けて退院したばかりです。因みに今日は抗がん剤治療を受けてきました。なかなか身の回りに AYA 世代の方がいなくて性の話や病気のことを親身に話出来る人がいなかったのも、凄く勉強になりました！ またこういうイベントに積極的に参加していくと共に私も自身の病気のことを上手く発信していけたらいいなと改めて感じました。
- ・AYA 世代における恋愛・結婚という大変デリケートな内容を、登壇者の皆さんが赤裸々に語っていただき、非常に参考になりました。患者の立場としては、悩んでいるのは自分だけではないと勇気づけられる良い機会になりましたし、医療従事者の立場としては、いつでも相談にのりやすい・患者さんが話しやすい雰囲気を常に作っていくことが大切だと感じました。また是非このようなイベントを行っていただきたいです。
- ・内容も素晴らしかったですし、ワイプでみなさんが並んでいてとても見やすく聞きやすく、すごいと思いました。アバターで参加される方もいて、赤裸々に語っていただいているけれどもプライバシー配慮したい人はできる仕組みもとても素敵でした。「やっと話せる時代になった」という言葉も印象的でした。
- ・なかなか人に話しにくい内容のことを、取り上げていただきありがとうございました。
- ・Q&A に寄せられた、婚約中にがんが発覚した方のお話を読んで、胸が潰れるように苦しくなりました。ガンが完治できる時代が来ると良いと心から思います。本日はありがとうございました。
- ・ねこざわさん、ふじあこさんが、悩み抜き、考え抜いて、子供を産むことがすべてではないこと、子供以外のことを産み出すことができる、また、子供を産まなくても里親養子縁組があるなど、前向きに次に踏み出されたことに、とても感銘を受け、勇気をもらいました。
- ・それぞれのパネリストの方々の実体験が心に響きました。つらさを感じながらも時間の経過とともにそれがあからゆる自分だと受け止められていることに、みなさんのレジリエンスを感じました。貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。
- ・自分の闘病の思いと重ねて拝聴していました。お話しにくいであろう事も率直にお話しくださってありがとうございました。
- ・登壇者の皆さまがお話しくださった経験が一つ一つ貴重なものでした。ありがとうございました。
- ・相談された時、どのように寄り添えるのか悩みます。体験された方のお話はとても重みがあります。ご登壇くださった皆様に感謝致します。
- ・現在抗がん剤治療中で、そろそろ仕事への復帰などを考え始めると同時に、30 代で恋人

もおらず、このまま一人きりで生きていくのかな…と思っていたところで今回のイベントの開催を知りました。今回のパネリストの皆さんのお話をお伺いして、病気をする前と変わらず恋愛をしていたり、がん治療を乗り越えたことで新しい価値観をもって人と出会うことができたことを知ることができて、少し勇気をもらうことができました。どの方も、悩み抜いて今の気持ちに辿りつけたのだと思うので、私もあきらめず悩み抜いてみたいと思います。本日はありがとうございました。

- ・渡邊先生の進行やお話も分かりやすく良かったです。踏み込んだお話をしてくださった4人の方々の生きた声もお聞き出来て有難かったです。

- ・大腸癌経過観察中の者です。30歳なりたてで癌が発覚し、治療に専念してきました。しかし抗がん剤が終了し経過観察後になると今後の自分のことにとっても不安を感じるようになりました。これからどう生きていくのか？恋愛は？結婚は？悩みはつきず、世代的に結婚出産していく仲間に置いていかれた気持ちと自分が女として不完全な存在な気持ちがしていました。正直に申し上げるとメディアにあがるのは癌を克服してから成功してきた方や幸せになった一部の方が目立ち引け目を感じてきました。そんな中今日のセミナーでは同世代の方の等身大の意見をきくことができて本当に気持ちが軽くなりました。癌患者が恋愛なんてとどこか諦めの気持ちもありました。そんな中成功だけでなく失敗したこと傷ついたこと、そして私は1番心に響いたのは周りにこうしてほしいと求めていることなんだ。ということでした。生活や恋愛面で今の現状から一步踏み出したいと参加しましたがとても良かったです。本当にありがとうございました

- ・サバイバーの方々の壮絶な苦悩を聴かせていただき、がん看護に携わる者としてとても良い機会になりました。ありがとうございました。

- ・私も25歳で白血病になったから同じ悩みをかかえています。でも、それ以上に驚愕したのは、男性の悩みでした。男性の方が吐露できないのかも、と思いました。ご登壇の方々に感謝します。

- ・ありがとうございました。AYA世代の当事者の方と関わらせていただく中で、自分がどのようにあるとより良い支援ができるのかと悩んでいることが多くあります。経験を聞いたことで、「こう感じていらっしゃった方もいたんですよ」とお伝えできることで、力になればと思いました。また、最後の医療者の支援の部分では、私自身が「聞きにくい」と思ってしまい、目に前の当事者の方が困っていないか、悩んでいないかという支援において当たり前の感覚を忘れてしまっていたと反省しました。前のめりに支援するのではなく、私自身も同世代、近い世代として一緒に悩みながらサポートができればと思います。お辛い経験や、なかなか他人に話しにくいと感じてしまう内容について詳しくお話ししてくださって本当にありがとうございました。

- ・司会の方のファシリテーションがピカイチでした。

- ・看護師として、常日頃から微力ながら患者さんに寄り添えるよう心がけています。みな

さんが様々な苦悩を赤裸々に話してくださり、これからの看護のヒントを得た気持ちでいます。がん看護は患者さんから得ることが大半であり、非常に参考となりました。ありがとうございました。

・私も移植して17年経ちますが、女性お二人の、フェアリーな存在、妊娠しないなら結婚はいつでもいいじゃん、というそれぞれの意見になるほど！と思いました。ここのところ妊孕性のことに悩んでいましたが、少し前向きに生きられそうです。でも、思った以上にみなさん恋愛、結婚されてるんだなと思いました。私は全くそうならず。というか、人のコミュニケーションの取り方が未だによく分かりません。また、カッキーさんの最後のやっと時代が自分に追いついた、というのは、私も全く同じことと思っています。またオンライン配信も体力のない私には現地に行くより参加しやすいです。同じ思いや悩みのある人と繋がるって大事なのだとここ数年でやっと思えるようになりました。また参加したいです。ありがとうございました。

・話しにくい内容があったとは思いますが、登壇者の皆さんが体験や想いを真摯に語ってくださったことにとても感動しました。内容は今までお聴きしたことがないことばかりでした。皆さんの体験や想いを伺えたことで、教科書的な一般化されたものではなく、とてもリアルなものでした。

・20代前半で就職して間もない時期や恋愛や結婚をする前にがんが見つかり、治療をし、妊孕性の問題に直面し、オストメイトを使用するというのは、大変な経験をされていると思いました。自分の病気として乗り越えるだけでも大変なことがあったと思いますが、恋愛するとパートナーのことが気になりますので、前向きに考えるようになるまでは大変だったと思います。お互いにあまり気にせずに話したり相談できるような関係が広く築けるとよいと思います。そして、医療が進歩して、妊孕性の問題が生じず、オストメイトを使用しなくてよくなるとよいなと思います。

・当事者の方の話を聞けてとても勉強になりました。セクシャリティについて意見を交わすことは大切だと思いますが、なかなか機会が無いため今回のイベントに参加して本当に良かったです。患者さんに寄り添える看護師になるために頑張ろうと思いました。

・2時間という限られた時間ではありましたが、私もガン（精巣腫瘍）のサバイバーとして、大いに参考になりました。改めて、サバイバーの方々の体験談は大きな意義をもつものであると感じました。私は今、ピアサポーターを目指し、患者や医療従事者などいろいろな方々の話を聞いておりますが、今回は、恋愛や性、結婚といった新たな視点を見つけることができ、非常に有意義な時間でした。今後もし機会があれば、本日のセミナーを参考にさせて頂こうと思います。いわゆる「世間の常識」や既存の価値観に囚われることなく、ガン患者だからこそその視点や発想で可能性を追求できればとも思いました。本日はどうもありがとうございました。

・医療従事者に向けて医療者などが行うセミナーに比べ、患者さんから意見が聞ける事が

本当に心に届きます。性のことは患者さんも話しにくいし、私も伝え方がわからなくて、何もできていませんでした。がん治療においては患者さんは生死や副作用などに向き合う事に必死で伝えていいのか、本当に今欲しい情報なのか分かりませんでした。今回の講演で患者さんに言ってもいいと教えていただきました。その時の患者さんの状況にもよりますが、伝えていけるように、または後から冊子を読んだりして情報がえられるように支援していけるようにします。ありがとうございました。

・自分の質問を取り上げていただけて嬉しかったです^^ 渡邊先生もパネリストの方も明るく、メンタル強いなと思いました。特に印象に残ったことは、ねこざわさんが自分の性の状況をパートナーに素直に伝えておられたことです。素敵だなと思いました。素直さ、見習いたいと思います。2時間あっという間でした。ありがとうございました♪

・パネラーの皆様には本当に正直にお話いただいたと思います。わたしも患者ですが、うまくいっていることとしないこと、リアルなお話が聞けて、私一人じゃないんだ、と安心することができました。

・2時間あっという間でした。登壇者の方々のお話しも大変参考になり勇気づけられました。個人的には自分がAYA世代(30代で罹患)とカテゴライズされることにはかなり抵抗があるのですが、アンケートで様々な年代の方がおられたのでちょっとホッとしていました。参加者の方々(患者、医療従事者問わず)の意見ももっと聞いてみたかった気はします、…2時間では足りなくなりますね。参加人数も多数ですし、おしゃべりはアプリで、疑問は質問で、と趣旨はたぶん理解しましたが、どなたも遠慮された(?)のか、ちょっと物足りなく感じました。こんなことなら時間も足りないし、アプリ登録の説明いらなかったかな?で、どちらともいえないを選びました。うまく言えませんが、例えば同じ23歳でも社会人6年目の人も社会人1年目の人もいるでしょうし、同じ39歳でも独身の人も既婚の人も既婚でも沢山のお子さんがいる人もいれば不妊治療中って人もいるでしょうし、誰もがその時々でその時必要な情報や支援が得られるとよいな、と感じています。副作用で高血圧になるから血圧測ってと言われてAmazonで血圧手帳買ったのですが、既にたぶん10回以上は使っているその治療薬の冊子(血圧手帳のでっかい版みたいなやつ)をつい先日外来化学療法室でいただいて…、え、そんなんあるなら早くちょうだいよ〜と内心思いました。今更ながら嬉しかった半面、かなりガッカリしました。患者は我儘で大変だと思いますが、ご質問されていた看護師の方には、ぜひ挫けずに私達に接していただきたいな、と思います。

・今回は、がん以前に困りを持っている患者さんがパネリストとしていらっしゃったことが、自分にとってとてもありがたかったです。私自身もAYA世代のがん経験者であり、がん以外にもいろいろな障害や病、LGBTQに関する事など困りが重複しています。つまり、がんになる以前から仕事・恋愛・学業等、心身共に苦悩してきました。少し極端な表現をしますが、これまでAYA世代というテーマで医療者の方の話を聞いたり、AYA

世代を背景として患者同士で会話をしたりする中で抱いてきた個人の印象として「AYA 世代のがん患者＝比較的順調な人生の中にがんという大きな出来事があって困難を抱えている人」というのがスタンダードな定義というところがありました。そうした切り口で話が始まってしまうと、自分も AYA 世代でありながら、どこか蚊帳の外のような感覚を抱えていました。例えば、患者同士での会話で「恋愛」の話をするとなったとき、がんのこと以外の困りを開示しなければならない流れになってしまい、それによってその場に水を差す心配が出てきたり、あるいは目の前の人が信頼できる相手かどうかまだわからない不安感を抱いたり、当たり障りない回答でお茶を濁すことしかできなかったり、その後で更に孤独感に襲われたり、というような状況が挙げられます。もちろん、私もがんについて悩む部分があることに変わりはないのですが、「恋愛」1 つとっても、がんのみならずそれ以外の困りを複合的に孕んでいるため、一筋縄ではいかないのです。どちらかと言えば、もっと人生を重ねた年配の患者さんたちと関わっている方が気持ちが楽でした。こうしたイベントでも”多様性”というキーワードが前面に出てきていることを希望的に思うのですが、AYA 世代を「がん単一」で括ってしまうのではなく、それ以外にも困りを持っている可能性、もう一步向こう側の人生背景に思いを馳せ、全人的な視点も持ってもらえたらと思っています。今回のイベントによって、”AYA 世代”と自分の人生が少しだけつながったような気持ちになりました。ありがとうございました。

- ・ストレートに表現することにみんなためらいを持っていると思います。これをいったら失礼なのではないか、わざわざ人に言うべきではないことだとか、みんな言わないから言わないことが普通で疑問に思うことがおかしいのだと言えない理由を探して納得しているのだと思いました。これは、当事者ではなく自分を含めた周囲の人の反応のことです。病気や恋愛について疑問をもつことやそれを言えることの障壁はまだまだ大きく、当事者を孤立させていく要因になっていると感じています。

- ・都内の総合病院で看護師をしています。近隣にがん専門病院や大学病院があり、AYA 世代患者さんとの関わりはかなり少ないです。お若い方がたまにいらっしゃったときに、ご高齢の方より構えてしまう自分がいましたが、1 番不安で困っているのは患者さんだと改めて気付かされました。臨床で率直に患者さんにきけなかった（きかなかった）ことをお話くださり、ありがとうございました。

- ・AYA 世代のがんにつきましては、以前から注目していましたテーマでしたので、大変興味深く聴かせていただきました。

- ・良かったです。

- ・色々な意見が聞けてよかったです。

- ・リアルな声が聞けてよかったです。また同じようなのがあれば聞きたいと思いました。

- ・私の娘は 5 歳の時に先天性角化不全症と診断され、10 歳まで生きられないと当時は言われました。また正常造血機能が日に日に落ちていくため、輸血依存の状態になった時点で

骨髄移植が必須とも言われておりました。私自身が製薬企業のMRとして血液領域で仕事をしていたこともあり、奇跡的にも仕事を通じてこの疾患の専門医に出会うことができました。そこから国内に数少ない他の専門医も紹介していただき、その時から今日に至るまで、出来る限りの治療を受けさせていただいたと感じております。娘は小学6年の時に骨髄移植を受け、ドナーさんのおかげで造血機能は回復いたしました。病気自体が少々複雑であり、大枠で言えば免疫不全、造血不全に該当するため、骨髄移植によって半分は治ったような状況です。来月からは高校3年生になりますが、今では日常生活を送ることは何ら支障なく、元気に学校も通っております。(今はリモートでの授業が大半ですが・・・)移植後も3ヶ月毎に定期受診をしており、残念ながら生涯定期受診は欠かすことができません。移植後のGVHDの経過フォローは必須で、二次がんの発現リスクも一般の方に比べると当然高く、まだまだ問題は尽きないのが現状です。ただ医療の発展とともに娘にも長期生存の可能性が出てきており、良い意味で専門医の先生方の予想を裏切るかたちになっております。嬉しい悩みにはなるのですが、そうなってくると思春期真っ只中の娘にとって、今後のライフプランを考える際に、今回取り上げていただいたテーマのお話は避けては通れないものであったと考えております。親としてどう接していくべきなのか、どのタイミングで何を伝えなければいけないのか、妻とともに真剣に考えさせられる大変良い機会になりました。直接的ながん患者ではありませんが、生涯、難病とうまく共存していく必要がある娘に対して、当然ですが、これからも出来る限りのサポートはしていこうと考えております。そして同じ病気で苦しんでいらっしゃる小児の患者さんにとって、娘がひとつの理想像、生きる希望になれるように、私自身も明るく前向きに日々を過ごしていきたいと考えております。

・がんで、もう産めない体になった、とおちこんだあと、じゃあ何歳でけっこんしてもいいじゃん、私が産まなくても養子縁組もあるし、と様々な選択肢を広げていく姿勢に感銘を受けました。

・大切な将来のあるAYA世代を社会全体で安心して生活出来るよう支援したいです。

・デリケートな問題であり、患者さんの日常生活における不便さ等が理解できていないので、どう捉えればよいか、消化できなかった。

・とても勉強になりました。今後の患者さんとの関わりに生かしていきたいと思います。

・恋愛や性に関する話まで、体験者の話を聞けてとても参考になった。

・医療従事者の立場としては、同世代の患者サロン、患者会の紹介を積極的に行い共に語れる場を提供することが大切と思いました。私はがん相談支援センターに勤務していますが、AYA世代の患者さんの恋愛・結婚まで踏み込んだ相談はまだ受けたことがありません。初めて相談する患者さんがいきなりこのような相談をすることは考えにくいですが、また、複数回同じ患者さんに関わっても、今回のような話をするかは分かりません。しかし、その患者さんのお話や気持ちはしっかり聴いて、どのような生き方をしたいと思っているの

かは受け止めることが大切ではないかと思いました。

- ・男性の意見も聞けてよかった。
- ・サバイバーの声を聞くことができたため、大変有意義な情報であった。このような内容は医療従事者ないでは、聞きにくい内容とされており、積極的に情報提供をしたりニーズを確認することはタブーとされている雰囲気がある。私はその中でもどんどん情報収集をしていたが、「医療界のタブー」をしていることにやや引け目を感じたりもしていた。今回のイベントで、サバイバーの声を聞き、自分の実践していたことが間違っていたのではないことを改めて認識できた。このような機会をもっとつくっていただけたら、ありがたいです。
- ・実際に罹患した方の具体的な話や、なかなか聞きづらい性のところの話をしてくれてとても参考になったし、お話しされている皆さんから勇気をもらった。

(6) 今後、がんと性(セクシュアリティ)について希望するイベントや情報などがあれば、教えてください。

- ・定期的にやって欲しい
- ・今回と同様の、患者さんの生の声をきけるイベントを開催していただけるとよいとおもいます。
- ・情報提供をしてくださると嬉しいです。イベント等も参加したいです。
- ・AYA 世代でなくても AYA 世代の時に直面した悩みを振り返って聞ける回はすごく良かったです。がん種や性別や年齢、既婚未婚もあり偏りがなくて良かったです。
- ・今回のように恋愛のリアリティを扱うようなセミナーやディスカッションは珍しく、とても興味深かったです。
- ・性交痛を軽減のための具体的な方法など(質問にもありましたが相談を受けたことがあるので)
- ・AYA 世代のがんと性はとても大きな問題だと思います。オピニオンリーダーとして頑張ってください、応援しています。内容もですが、継続して発信し続けることがとても大切だと思います。
- ・「婦人科癌の患者への医療者のセクシュアリティについての関わり」「化学療法中の患者への医療者のセクシュアリティについての関わり」
- ・がん経験者のお見合い
- ・妊孕性についての説明や対処については、説明を受ける必要がある人には説明がなされるようにはなっているのだろうと思います。オストメイトについては、他人に見られるのは嫌だろうなと想像します。とはいえ、具体的にはよく知らないので、オストメイトを使用している人が、どんなふうに工夫して、楽しく性生活をしているのかを具体的に知ることができると、それに悩んでいる人の励みになると思います。

- ・がん患者のパートナーの話も聞きたいと思いました。
- ・がん患者が、がんのために付き合っている人と別れたり、離婚することがあります。がん患者の性の問題はパートナーにも大きな問題になると思いました。パートナーがどの様に感じているのか、気になりました。
- ・今回みたいな第2弾があればまた参加してみたいです。
- ・医療者の方や体験者の方からの、性生活の対処法にどんなものがあるのか、具体的で現実的な話が聞きたいです。たとえばローションを開けてみたり、狭くなった膣をひろげる機器？を実際にみせてくれたり。薬剤師さんからも、おくすりの副作用でどんなセックスへの障害があるのか、またどう対処している人がいるのかなど。対処法や対処グッズをお試しで見られると、試してみるときのハードルが低くなります。
- ・婦人科がんの患者会の方でセクシャリティのことでネット上で絡まれた話を聞きました。(聞いた内容はたった一言なのですが、同じく当事者である私にはとてもここに書くことが出来ないような酷い暴言でした。)また同じ患者同士でも、人によって病状によって状況によって、僻みや妬みもあるかもしれません。コロナ禍で近隣の患者会は休会続きです。安心して意見交換や、他の方のお話を聞けたり、または話したりする機会があればよいな、と思います。
- ・本日のようなオープンな語りの場
- ・妊孕性温存の実際の体験やその当時の思いなど、サバイバーの方にお聞きしたいと思いました。前に予定がありすべて視聴できなかったため、お話していたら申し訳ありません。
- ・AYA世代にも関わりますが、子宮頸がんなどについては興味のあるところです。
- ・パートナー向けのイベントがあればと思います。
- ・私は抗がん剤治療を担当する看護師ですが、お恥ずかしいことですがどの薬において性生活や妊娠を控えなければいけないか確認方法がいまいちわかりません。免疫チェックポイント阻害薬など薬剤別に製薬会社に問い合わせ返事させてもらったこともありましたが、間接的な方からのご相談で治療開始のタイミングも知れず回答までに時間がかかり治療開始までにお伝えできないこともありました。もしそのことが分かるような勉強会や精子や卵子の凍結保存の段取りなども知れるような勉強会があれば教えていただきたいです。
- ・ご家族やご友人との会話の中で印象に残っていることがあれば、お話をうかがってみたいと思います。
- ・フェミテック？について
- ・男性のみのイベント。
- ・男性の不妊とそのケアについて（勃起障害、持続時間が短縮してしまうことなど）サバイバーの思いと医療側の対処。不妊になった未婚の女性。どのように生き方を変えているかなど。不妊ということで結婚できない・恋愛できない・カミングアウトできない・他の

人と全く違うから生きる意味ない　と考える苦しんでいる方々が多くいます。このような方々にどうにか情報を届けられたらと思います。

(7) その他、ご意見などあればお書きください。

- ・無料で視聴させていただき、ありがとうございます。活動に感謝しています。
- ・参加できてとても良かったです。ありがとうございます。
- ・ありがとうございます！
- ・患者の親の立場での視点もあると良いと思う。
- ・もともとアプリがあるのは知っていましたが、どうやって登録すればいいのか調べてもわからずだったので、この機会にshれて本当に良かったです。ただ、同じような悩みを持っているがんの友達にも教えたいけど、ハードルが高くて難しそうだなと思いました。
- ・進行役の渡辺先生が、登壇した患者さんの気持ちに寄り添いながら、視聴者の知りたいことを聞き出しつつまとめくださって、非常に上手にリードされておりすばらしかったです。
- ・AYA 世代の親世代として参加させて頂きました。とても参考になりました。
- ・本当に素晴らしいイベントでした。公開されたら他の人にもおすすめしたいです。私は気にせず9歳の子供がいるよこで大音量で見えていましたが、字幕で夜中に見たい方もいらっしゃるかなとは思いました。素晴らしい内容でしたので、書き起こしなどが共有されるといいのかもしれない。
- ・最初にあった「アンケート」、初めてなのでうまく送れず申し訳ございません。(送り方がわかりませんでした)
- ・顔を隠していらっしゃったお一方の顔が、たまに一瞬ですが、うつってしまっていました。水分補給時など、枠から出てしまった時なのか、大丈夫か心配になりました。
- ・生のサバイバーの方のお話が聞けたのは、良かったです。情報提供の仕方を考えたいです。
- ・今まではなかなか声があげられなかったけれど、オンラインが主の今だからこそ声があげられるので、これからはきちんと患者さんの声が届く時代になるのかな、と感じます。医療者にぜひ、視聴していただきたい、と思いました。ありがとうございます。
- ・私が HIV/AIDS の啓発活動を 30 年ほど前にしていたことを強く思い出しました。性の問題は今以上に語りにくいものでしたが、演劇を通して中高生に伝えていました。どなたかがようやく時代が追いついてきたと、同じ思いでした。本日パネラー参加された方には本当に敬意を表したいです。
- ・ファシリテーターの方が4人の登壇者に上手に話をしてもらっていたのが印象に残っています。ありがとうございます。

・今後も本日同様のセミナーの開催を希望しております。年に数回あればと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

・貴重なお話をありがとうございました。

・ファシリテーターの方のナビゲーションはとてもスムーズでわかりやすかったです。一方で、パネラーの皆さんのとてもプライベートな情報に、ファシリテーターの方がさばさばとそこに踏み入っていく感じが、見ていて辛くなってしまいました。自分だけかもしれませんが、実際にがんになった人と、そうでない人とは、大きな違いがあると感じています。パネラーの方が「ねほりはほり聞くんじゃなく」や「患者も話しやすい人を選ぶ」とおっしゃっていましたが、できればパネラーのみなさんに、ファシリテーターの方の、もう少しテンポや気持ちの面での同調が見られれば、と感じてしまいました。例えば「答えにくかったらいいですよ」とか「言いにくいところは避けて大丈夫です」などのフォローの一言や、声掛けなど。10年かかって近年やっとこういう話ができるようになった、とパネラーの方がおっしゃってました。患者にとっては、ほんとうにそれくらいデリケートな話題なんです。個人的な感想ですみません。治療が長いのですが、ともすれば女性同士の性的な会話も男性よりはタブー視されない、現在の女性の方の医療者から、あけすけな形でセクシャリティについて話される機会が多いと実感しています。がん患者本人は、命の危機を体感し、その上でセクシャリティという、恥や自尊心やとても個人的なことを抱え苦しみ今でもその大きな問題に心揺れている真っ最中なんです。あけすけにオープンに話す場が増えていくことだけが大切なわけではなく、そこには寄り添いと想像力と、安心感や空気感がまずは必須なのだと感じます。今日は多少、ファシリテーターの方の、オープンさ、「どんどんオープンに話していけるように」といったお気持ちが際立ってしまっているように見受けられました。患者と医療者は対等であるのがのぞましいですが、今日はファシリテーターの方が立場が上のように感じてしまいました。ざっくばらんな場も大切ですが、できれば色々な視聴者がいる場では、パネラーの方には敬語で、また呼びかけもさん付けとかで、ある程度の公的な配慮、互いが対等である配慮が欲しかったです。別の機会で、ファシリテーターには同じ病気をかかえた人で、医療者のかたは、ぜひアドバイザーとして参加していただく、という場があれば安心感があります。勝手に長々と失礼いたしました。

・渡邊先生、皆さま、スタッフさま、こちらこそ週末の遅い時間にどうもありがとうございました。コロナ禍で困ってしまいますが、そうでなければwebでこのようなセミナーなどに参加しようとは思わなかったと思います。大変ありがたいです。

・今の大人が受けてきた日本の性教育は、自分への関心だけでとどまっていたのだと感じました。自分の体や心の変化や衝動はもちろん自分のことですが、対象となる人がいること、悩みを誰かと話し合うことがタブーのような雰囲気置き換えられたのは残念な結果なのだと思います。大人が近寄ろうとしないので、子どもたちや若者は困っているのだと

思います。教育が心を育てると思っています。自分を大切に思う気持ち、相手を大切に思う気持ちを誰もがもってられる社会がいいですね。

- ・このようなイベントに初めて参加させていただきました。ありがとうございました。
- ・全くの余談ですが、娘の骨髄移植に関しては、2016年の24時間テレビで取り上げていただきました。思春期というのがありますが、その時以来、ジャニーズ愛が凄すぎて・・・(笑)もしご興味がございましたらネットで調べてみてください。この度は大変勉強になりました、ありがとうございました。
- ・貴重なお話を聞けました。ありがとうございました
- ・貴重な講演会ありがとうございました。
- ・相談者と同等の体験がないと、理解することは難しいと思った。
- ・学び深き時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。